

平成20年4月

市民協働による 水辺づくり

千葉市下水道局

○千葉市の現状

○昭和30年代以降の
急激な都市化

○下水道整備の推進

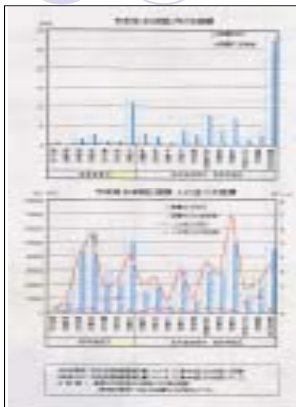
○大都市へ成長
平成4年度 政令指定都市に指定
市域面積 272.08km²
人口 93万9千人(H20年2月現在)

○下水道汚水処理普及率97%(H19年度末)
・公衆衛生、生活環境の向上
・河川・海域等の水質の改善
・浸水被害の軽減

河川水量の減少・湧水等の水源の消失・
生物生息空間の消失

1

市街地内の水面積



○市内の主要河川は、後背地に
水源となる山脈もなく、湧水と
生活排水にその水源をたよっている

○海拔10m~20m位の、低地の
谷津の間をぬって流れる
川幅の狭い、概して自己水源の
乏しい河川が多い

2



水量の減った川



雑草が生い茂る調整池



コンクリート三面張りで整備された水路



3

○「千葉市水辺再生基本プラン」の策定

○河川・下水道事業は多くの水をコントロールしているため、水辺づくりを推進する必要がある

下水道局所管の主なオープンスペース

- ・都市下水路 9本
- ・幹線排水路 38本
- ・雨水調整池 101カ所

都市における貴重な空間
水辺再生の可能性

平成15年5月

【千葉市水辺再生基本プラン】策定

- ・キーワード《心なごむ 水辺の再生》
- ・市民協働で親しめる水辺づくりをすすめる。

4

○プランに基づいて進めている事業

①中溝水路

・排水路の暗渠化工事に伴い、地元住民から、排水路上部の有効利用に関する要望が出され、地元自治会・地元小学校と協働で協議会を立ち上げ、上部整備手法の検討を行っている。

協議会構成：水路周辺11町会、地元小学校、千葉市下水道局

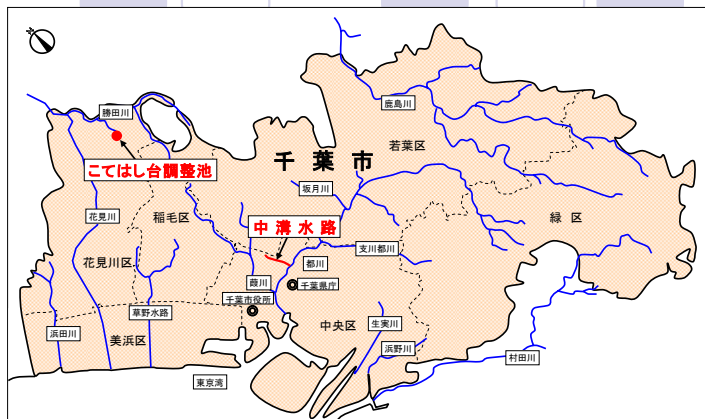
②こてはし台調整池

・水辺づくりにおける市民協働手法についての大学との共同研究から発出した協議会において、大学・地元自治会・地元小学校と協働で、開発で築造された雨水調整池の水辺再生についての検討を行っている。

協議会構成：千葉大学、地元自治会、地元小学校、千葉市下水道局

5

○位置図



6

○調整池の水辺再生について

調整池は市内に約100箇所、市街地にも多く存在し、都市部における貴重な水辺空間となる可能性を秘めている。

近年、新規に築造する調整池の中には、多目的利用を前提とし一般開放するものも増えている。

主な多目的用途

- ・公園的整備（市内で7箇所）
- ・テニスコート（市内で2箇所）



大方調整池



水辺の郷公園

7

○調整池の水辺再生について

しかし...

多目的利用されていない調整池がほとんど。

昭和の開発に伴い築造された調整池は、

- ・最低限の用地、容量。
- ・効率重視の整備により、景観の配慮がない。
- ・コンクリートや鋼矢板による垂直護岸
- ・柵に囲われている



治水という重要な役割を果たしつつも、殺風景で近寄りがたい施設。

親しめる水辺として再生できないか。

8

○こてはし台調整池水辺再生の経緯

平成15年5月 「千葉市水辺再生基本プラン」策定
基本理念『心なごむ水辺の再生』
○水辺づくりには市民協働が不可欠

平成16年度 千葉市・千葉大学共同研究事業
『「水辺づくりにおける市民と行政の
パートナーシップ形成」に関する研究』

行政・大学・住民による
検討会の設置

小学校の参画

平成17年度～ 行政・大学・住民・小学校の4者協働
による水辺づくり

平成18年2月 『こてはし台調整池水辺づくり協議会』設置

9

○こてはし台調整池の現況

『こてはし台団地』造成に伴い昭和40年代に築造された。
周囲は住宅地に囲まれ、近くに小学校がある。



こてはし台調整池の全景

- ・コンクリートおよび鋼矢板の垂直護岸
- ・柵で囲われている



内部は草が生い茂る



服部氏によるビオトープ 10

○こてはし台調整池の桜



こてはし台調整池の周囲には、池を囲むように立派な桜があり、春には見事な景観となる。しかし、花見をするような場所はない。



11

○雨天時のこてはし台調整池

晴天時



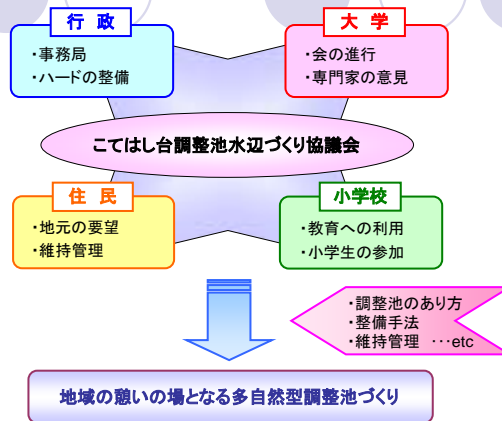
雨天時



こてはし台調整池は
雨水調整池であるた
め、雨が降ると水が
溜まる。

12

○協議会の構成



13

○協議会での議論

現況

- こてはし台調整池は調整池の役割は果たしているが、親しめる施設とは言えない。
- 調整池の周りには立派な桜があり、花見の場所等のニーズがある。地域の憩いの場となる可能性を秘めている。
- 雨水調整池は雨を貯留する施設であり、雨天時は危険である。
- 近くに小学校があり、体感教育・環境教育の場として有効利用できる。

議論

- どのような施設にするべきか。
- 危険のある施設をどのように安全管理すべきか。
- 地元のニーズはどうか。子ども達の夢を取り入れられないか。
- 完成後の維持管理はどうか。
- それぞれの役割分担をどうか。

14

○協議会の開催経緯

平成16年度	検討会3回	現地見学会1回	基本計画
平成17年度	検討会2回 協議会2回	現地見学会1回 表彰式1回	
平成18年度	協議会3回	発表会参加1回	実施設計
平成19年度	協議会2回		工事発注



協議会風景①



協議会風景②

15

○小学生を招いての現地見学会

協議会では、子ども達の夢を聞きたいという意見が多く、小学生を招いての現地見学会を開催した。



協議会会長による主旨説明



草刈り後の調整池



市職員による調整池の説明

16



17

○小学校児童の作品1

現地見学会の感想を基に、子ども達に調整池の夢を作品にしてもらった。

小学校児童より約70点の
作品が集まった



18

○小学校児童の作品2



19

○表彰式



作品を描いてくれた児童をこてはし台小学校で表彰した



作品を描いてくれたみんな
4, 5, 6学年児童約300人

20

○こてはし台調整池 整備イメージ

子ども達の夢と協議会の意見を基に基本計画を策定した。



基本計画のポイント

- ・調整池の中心に水辺をつくり、調整池容量を確保しつつ護岸を一部緩やかにすることで水辺に近づけるようにする。
- ・散策のために、回遊性のある歩道を整備し、所々にベンチや「あずまや」等を設けて、水辺とともに周囲の桜並木も有効に利用する。

21

工事施工状況(平成20年4月18日)



22

○今後の予定

平成20年度 第2期工事→完成

平成21年度～ 一般開放(維持管理)

- ・工事についても協働で行える部分は協働で行う。
- ・安全管理や住民と行政の管理区分等を詰め、平成21年度の供用開始を目指す。

23